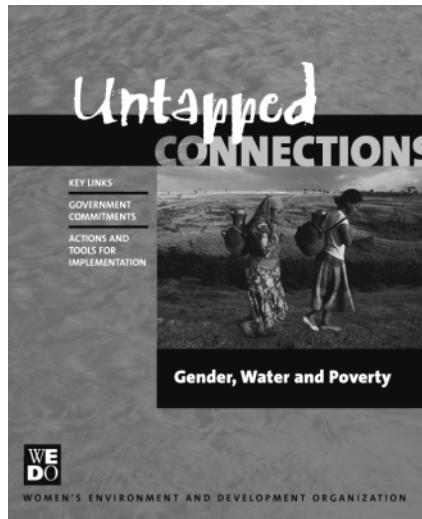


“未活用の連携：ジェンダーと水と貧困” 〔要旨〕

水は人類とあらゆる生命にとって必要不可欠なものです。しかし、水質汚染や清潔な水の利用の困難さから、貧困の悪循環、水が原因で発生する病気、そして男女間の不平等といった諸問題が次々と発生しています。

1990 年代の国連における諸会議 – 1992 年国連環境開発会議 (UNCED : 於リオデジアネイロ、ブラジル) から 2000 年ミレニアム開発サミット (於ニューヨーク、米国) や 2002 持続可能な開発に関する世界首脳会議 (WSSD : 於ヨハネスブルグ、南アフリカ) –において男女平等 (gender equality) および女性のエンパワーメントが貧困根絶のために必要不可欠であるという考えが広く受け入れられました。しかし女性の人権を高めていくことが貧困の悪循環を断ち切る鍵になるのだという認識があるにも関わらず、その掛け橋となる政策の導入は捉えどころが無いと言わざるを得ません。



「未活用の連携：ジェンダーと水と貧困」は WEDO のホームページ上で詳細をご覧頂けます。

(英語のみ: www.wedo.org/sus_dev/untappped1.htm)

女性環境開発団体（WEDO）の報告によると、「未活用の連携（Untapped Connections）：ジェンダーと水と貧困」とはジェンダーと貧困と水という3要素の深い関連を示して水供給の扱いにおける女性の中心的役割を追求するものであり、水と衛生の利用方法が女性の健康と経済活動に密接な係わり合いがあることを示しました。これまでの多くの事例からも明らかのように水資源関連プロジェクトとその取組みが女性の地位向上に成功を収めています。政府関与を実際の行動へと変えていく戦略がいくつも実施されてきました。

「未活用の連携（Untapped Connections）」は第3回世界水フォーラムだけでなく更に幅広い場で提唱活動のための重要な参考ツールとして用いられます。持続可能な開発に関する世界首脳会議や国連ミレニアムサミット、第4回世界女性会議、国際人口開発会議、その他水資源に関する数多くの国際会議までをも含めた、ジェンダーと貧困と水資源に対する現今の政府関与の集大成としての活用が期待される考え方なのです。

“連携を築く”

指針原則としてのジェンダー間の平等（gender equality）

[国連内部において]

過去二つの国連級会議の交渉過程で、ジェンダーと貧困と水資源問題に対する女性のアドボカシーの方向性が世界的に示されてきました。

ミレニアムサミットにおいて189ヶ国政府によって採択された数値目標と時限目標であるミレニアム開発目標（MDGs）は持続可能な開発のための統一アプローチです。このゴールは1990年代に行われた国連の諸会議やサミットで提言された開発のための貢献目標を統合したものであり貧困根絶へ向けた歴史的にみても最も包括的なアプローチではあります。がしかし、ジェンダー間の平等（gender equality）を初等・中等教育にのみ限定しているという目標でもありました。（MDGs Goal3 参照）

持続可能な開発に関する世界首脳会議での行動計画は、水と衛生(water & sanitation)、エネルギー(energy)、健康(health)、農業(agriculture)、生物多様性(biodiversity)、エコシステム(ecosystems)という中心テーマと「女性」とを特別に関連付けて貧困根絶へ寄与することを再認識し、更新したものです。このような中心テーマと「女性」とに対する全体論的アプローチは、ジェンダー間の平等と貧困根絶、水資源管理の三点を含む諸問題間の連携を強める絶好の機会となるはずでしたが、未だにその連携は不充分なままでです。これらの連携を成功裏に築き上げ核として行くためにジェンダー間の平等は必須条件なのです。

女性のエンパワーメントは健康、教育、経済、政治、法規制、政策決定組織等に関する広範囲の課題に真の変革をもたらすために必要であり、着実に促進されなければなりません。

過去行われた国連級会議以降のジェンダー問題に対する諸処の貢献はミレニアム開発目標の中へ再び統合されなければなりません。例えば、2015年までに安全な飲料水の持続的利用が不可能である人口の約半分をターゲットとしている第7目標を考えてみると、その中のジェンダーアプローチとして男女間で異なっている水の利用方法という点を取り上げ、より平等な水へのアクセスを求めるよう「水と衛生」の関連部門がジェンダー政策の改善に導いて行くことも可能です。

[国連の枠を超えて]

世界貿易機関（WTO）や国際通貨基金（IMF）、世界銀行（WB）といった国際的な金融・貿易機構がますます世界的な水資源政策を決定するようになってきています。一国の政府がこれら国際機構や地域間通商協約の圧力の下、国内水資源の管理を放棄してしまうので、新しく多国籍企業が国家・地方レベルの水供給の権利を持つようになってきているのです。

その結果として、人間が本当に必要としているものを民間セクターの目先の利益が勝ってしまい、水資源管理における女性の中心的役割が無視されつづけるのです。女性はそのような国際金融および貿易機関に対して権利擁護を主張していくかなければなりません。ジェンダー間の平等を訴え、そのような国際的な機関に対してより強い一貫した理念を求めることが、望ましい政策成果に達するためには必要不可欠なのです。

[手段]

各国政府はミレニアム開発目標を実現するためにジェンダー問題に関して充分配慮した方法を用いるべきでしよう。例えば、ジェンダーの観点でデータ構成要素が分割されていれば、河川の流域保全のための情報や管理過程に女性がよりアクセスしやすくなるでしょう。また、ジェンダーに関する予算組みがあれば、政府の施策や支出が女性の人権と平等を促進し、男女向け個別政策のインパクト格差を政府・NGO・その他の利害関係者が確実に評価できるようになるでしょう。

更に、多国籍企業・政府・市民団体間の自発的な協力関係を評価し規制するメカニズムが作られる事が望ましいでしよう。このような協力関係はミレニアムサミットと持続可能な開発会議で決められた目標を達成するために政府が実現し得る一つの方法として今までも促進されてきました。しかもしも規制や評価システムがなければそのようなパートナーシップは不安定な勢力関係の中で深刻な危機的状況を招き、得られる効果よりも大きな損失を生む結果となってしまいます。

女性環境開発団体（WEDO）は、全人類が平等な経済と社会、健康で平和な地球、及び人権を獲得するために、政策決定者としての女性の権利向上を世界的に目指すべく、あらゆるレベルの政府、機構、フォーラムにおいて提唱していく国際団体です。



Women's Environment & Development Organization
355 Lexington Avenue, 3rd Floor
New York, NY 10017-6603, U.S.A.
Tel: 212-973-0325 • Fax: 212-973-0335
E-mail: wedo@wedo.org • www.wedo.org



UNFPA（国連人口基金）からの惜しみない資金援助によって今レポート及び翻訳が可能となりましたことを WEDO よりここにご報告致します。ここで示される見解及び意見は必ずしも UNFPA の公式見解を反映させたものではありません。